

<令和元年 調査のポイント>

※本調査結果は、新型コロナウイルス感染症の影響が顕在化する令和2年1月下旬以前の数値であり、同感染症による影響を受けておりません。

- 1 今回の調査から、宿泊客数等の算出に当たり、アンケートに基づく推計から、**宿泊税データを活用した手法に変更し、より実態に近い数値の把握が可能に。**
【宿泊税データの活用により、統計手法が変更となる調査項目※】 統計手法の変更についてはP5参照
宿泊客数（総宿泊客数、外国人宿泊客数）、修学旅行生数、観光消費額等（以下変更となる数値には下線）
※ 統計手法の変更に伴い、宿泊客数を用いた数値について、**前年までとの単純比較はできません。**
- 2 統計手法の変更はあったものの、**観光消費額は1兆2,367億円と4年連続で1兆円を超える消費額。**
市民年間消費支出の約55%に相当し、京都経済に大きな影響。
- 3 **観光客数は4年ぶりに増加。**外国人観光客数は前年比約10%増加である一方、日本人観光客数はほぼ前年数値を維持。また、**外国人観光客の「祇園」や「錦市場」への訪問率が減少し、集中の緩和が進展。**
- 4 **日本人観光客の満足度が向上し、外国人観光客とも満足度は90%を超えている**一方、日本人観光客からの「残念なことがあった」との回答において、「**混雑**」「**マナー**」が挙がっている。

1 観光消費額

※統計手法の変更により影響を受ける数値には下線

(1) **観光消費額 1兆2,367億円** / 京都市民の年間消費支出81.3万人(約55.4%)分に相当 (P.27)

- ▶ **日本人消費額 9,049億円** / 日本人消費額単価（宿泊客4.1%増、日帰り客9.1%増）20,267円は
前年の20,931円から664円減(3.2%減) / 宿泊代や飲食費等は微増、買物代は微減 (P.27)
- ▶ **外国人消費額 3,318億円** / 外国人消費額単価（宿泊客4.7%減、日帰り客16.9%減）37,437円は
前年の46,294円から8,857円減(19.1%減)となるも、日本人単価額の1.85倍と高い水準
/ 宿泊代や買物代、飲食費等が前年よりも減少 (P.28)

(2) **経済波及効果 1兆3,569億円** (P.28)

粗付加価値効果 8,026億円 (京都市の市内総生産（平成28年度）6兆4,847億円の12.4%に相当) (P.28)

雇用誘発効果 15万3千人 (京都市の従業者数（平成28年）73万9,542人の20.7%に相当) (P.28)

2 宿泊客数

※統計手法の変更により影響を受ける数値には下線

(1) 総宿泊客数 実人数 **1,317万人**、延べ人数 **2,125万人** (P.12)

▶ 平均宿泊日数 H29:1.57泊 → H30:1.61泊 → R1:1.61泊 (P.12)

▶ 宿泊比率 R1:24.6% (P.11)

(2) 外国人宿泊客数 実人数 **380万人**、延べ人数 **829万人** (P.14)

→ 訪日外国人観光客全体 (R1:3,188万人) に占める割合は11.9% ※JNTO「訪日外客数」

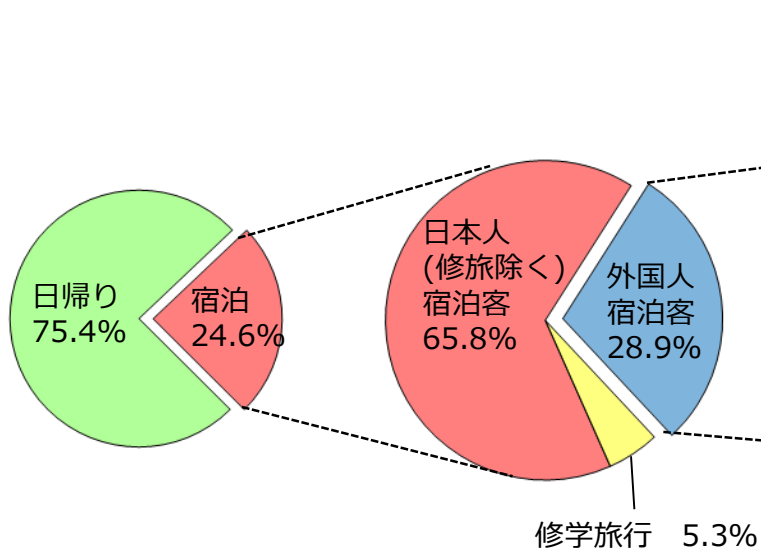
▶ 平均宿泊日数の増加 H29:2.04泊 → H30:2.14泊 → R1:2.18泊 (P.14)

▶ 本市の外国人宿泊割合は、国全体と比較して、より地域別 (アジア, ヨーロッパ, 北米等) のバランスがとれている。

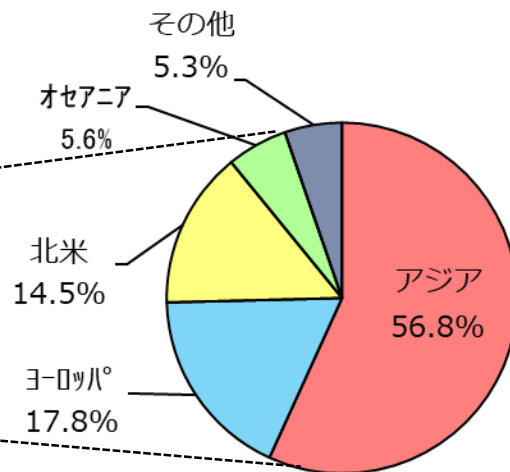
(3) 修学旅行生数 実人数 **70万4千人**、延べ人数 **121万4千人** (P.20) ※ 宿泊税課税免除のデータを活用して推計

▶ 平均宿泊日数 H29:1.76泊 → H30:1.88泊 → R1:1.73泊 (P.21)

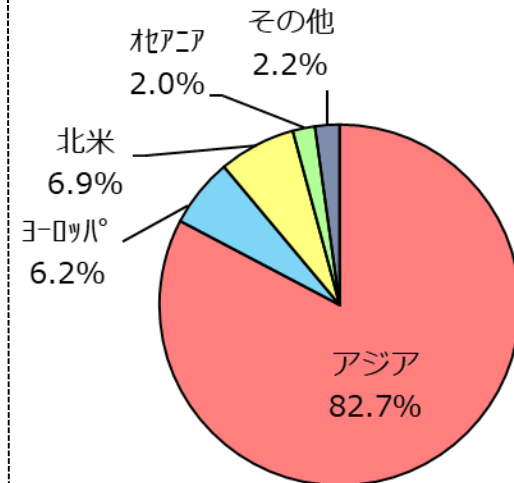
図表1 令和元年
京都市宿泊客



図表2 令和元年
京都市外国人宿泊割合



図表3 令和元年
訪日外国人客数割合



3 観光客数

(1) 観光客数 5,352万人 (P.11)

- ▶ 4年ぶりに増加（前年比1.5%増），7年連続5,000万人超え
- ▶ 月別観光客数の平準化が一層促進，
 繁閑差※は平成15年の最大3.6倍から令和元年は1.3倍まで縮小 (P.5)
 ※観光客が多かった月（H15.11）666万人 →（R1.11）494万人
 少なかった月（H15.2）186万人 →（R1.2）378万人

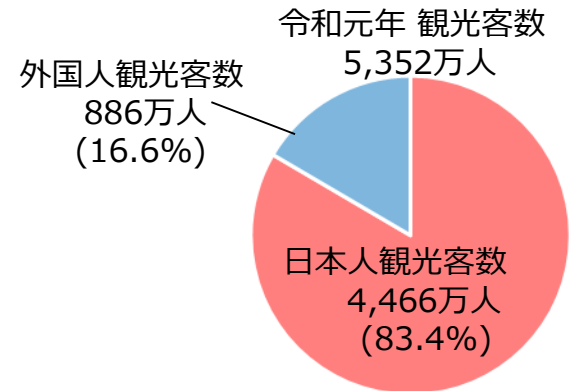
(2) 日本人観光客数 4,466万人（前年比0.1%減，4万人減）(P.7)

- ▶ 日本人観光客は，全観光客のうち83.4%を占めている。
- ▶ 「清水・祇園」等訪問率が50%以上の地域がある一方，依然として「山科」（2.2%）や「高雄」（1.3%）等の訪問率が低い。(P.55)
- ▶ マイカーで入洛される観光客の割合 H21:30.0% → R1:9.0% (P.40)

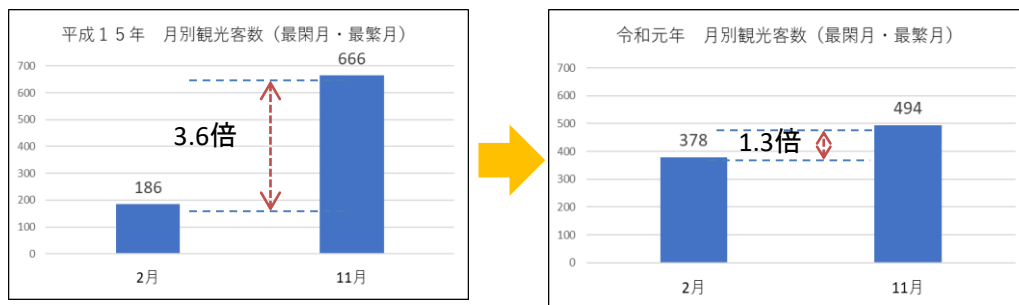
(3) 外国人観光客数 886万人（前年比10.1%増，81万人増）(P.7)

- ▶ 「祇園」や「錦市場」の訪問率が大幅に減少するなど集中の緩和が一定進む。
 ※外国人の訪問率「祇園」H30:40.4% → R1:29.2% / 「錦市場」H30:26.8% → R1:18.5% (P.67)

図表4 観光客数内訳



図表5 月別観光客数の繁閑差（平成15年と令和元年比較）



図表6 観光客数等内訳推計

※外国人観光客については，京都府訪問者 = 京都市訪問者とみなして推計

	R1	日本人観光客	外国人観光客	計
日帰り客		3,529万人	506万人	4,035万人
宿泊客		937万人	380万人	1,317万人
合計		4,466万人	886万人	5,352万人

※訪日外国人旅行者の京都府訪問者数推計（訪日外客数×京都府訪問率）
 3,188万人×27.8% = 886万人(前年比10.1%増) *訪日外客数の増加率 2.2%

出典：JNTO「訪日外客数」，観光庁「訪日外国人の消費動向調査」

4 観光客の満足度等

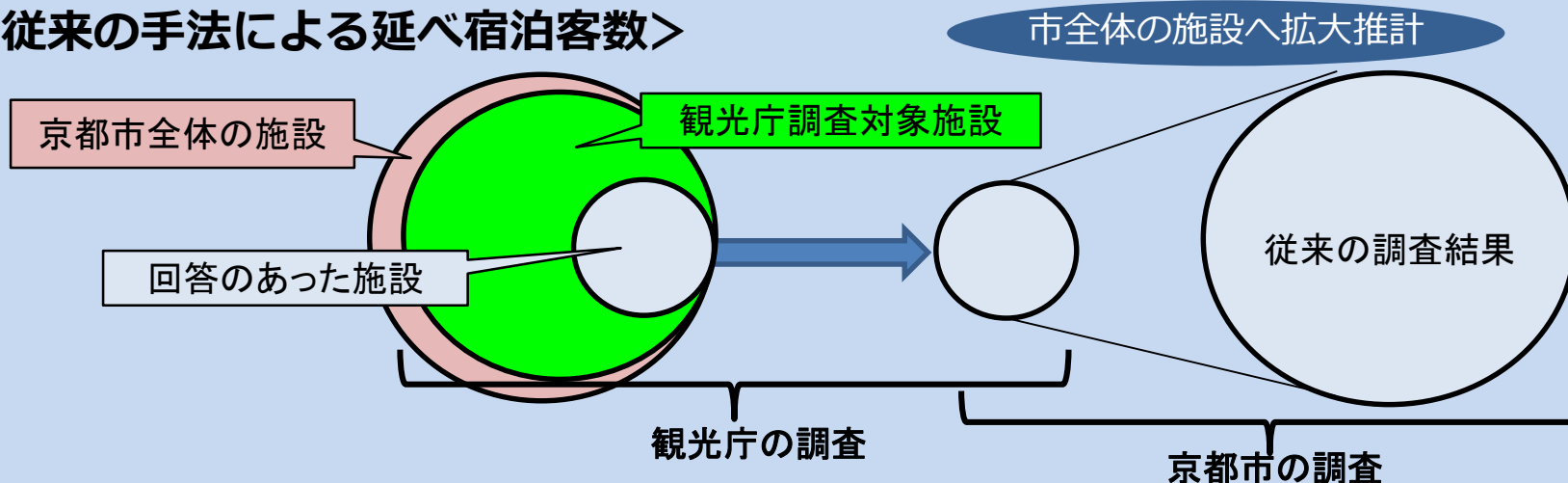
- (1) 多くの観光客が京都人のおもてなしを感じ、**満足度（大変満足～やや満足）は、日本人、外国人ともに90%超**
日本人（H30:90.3%→R1:91.3%）（P.30），外国人（H30:97.6%→R1:97.6%）（P.35）
- (2) 日本人、外国人とも、「**宿泊**」や「**夜観光（ナイトライフ）**」の満足度が向上
→ 日本人「宿泊」H30:82.5% → R1:85.3% / 「夜観光」H30:74.3% → R1:76.5%（P.30）
→ 外国人「宿泊」H30:92.3% → R1:93.8% / 「ナイトライフ」H30:70.4% → R1:74.5%（P.35）
- (3) キャッシュレス環境の充実により、**クレジットカードや交通系ICカード等の利用が大幅に増加**
→ 外国人「市内でのクレジットカード等のキャッシュレス決済利用率」H30:49.5% → R1:64.3%（P.70）
→ 日本人（H30:48.0%→R1:50.4%），外国人（H30:43.5%→R1:55.0%）とも半数以上が交通系ICカードを利用
- (4) 日本人、外国人ともに、**バスから鉄道へのシフトが進展し**、バスの混雑緩和に寄与（P.40,P.67）
＜市内利用公共交通機関＞
→ 日本人「鉄道」H30:54.5%→R1:57.7% / 「バス」H30:48.8% → R1:46.1%
→ 外国人「鉄道」H30:51.9%→R1:52.3% / 「バス」H30:29.2% → R1:22.5%
- (5) 外国人の「**食事**」の満足度(R1:92.1%)は高く、「**食**」への**関心の高まり**がみられる。（P.35）
→ 来訪動機で「食事」と回答 H30:35.6% → R1:38.2%（P.62）
日本食づくり（和菓子など）を体験をした割合 H30:10.3% → R1:13.4%（P.68）
- (6) さらに「残念なことがあったか」とお聞きしたところ、「**残念なことがあった**」との回答が減少
日本人（H30:46.5%→R1:44.7%），外国人（H30:16.7%→R1:16.3%）
▶外国人観光客の約8割が、京都観光で残念に思ったことがなかったと回答
▶「残念なことがあった」と回答した日本人観光客のうち、「トイレ」の回答割合は減少（H30:9.6%→R1:7.3%）
したが、依然として「人が多い、混雑」や「マナー」と回答する方が一定割合存在。（P.31）

【参考1】統計手法の変更について

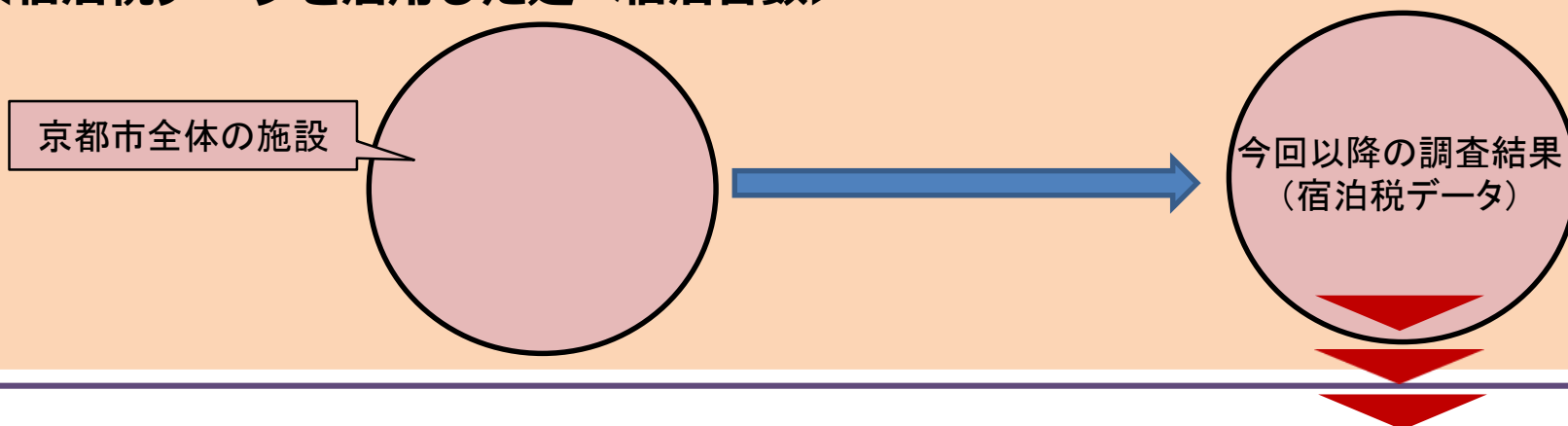
京都観光総合調査における「延べ宿泊客数」の従来の算出方法は、観光庁の宿泊旅行統計調査の京都市分の回答データを基に算出した推計値であり、回答のあった施設のデータを市全体の施設へ拡大推計する過程で、実際の「延べ宿泊客数」と乖離することがある。

一方で、宿泊税データからは、京都市内の全ての宿泊施設の延べ宿泊客数を把握することができる。

<従来の手法による延べ宿泊客数>



<宿泊税データを活用した延べ宿泊客数>

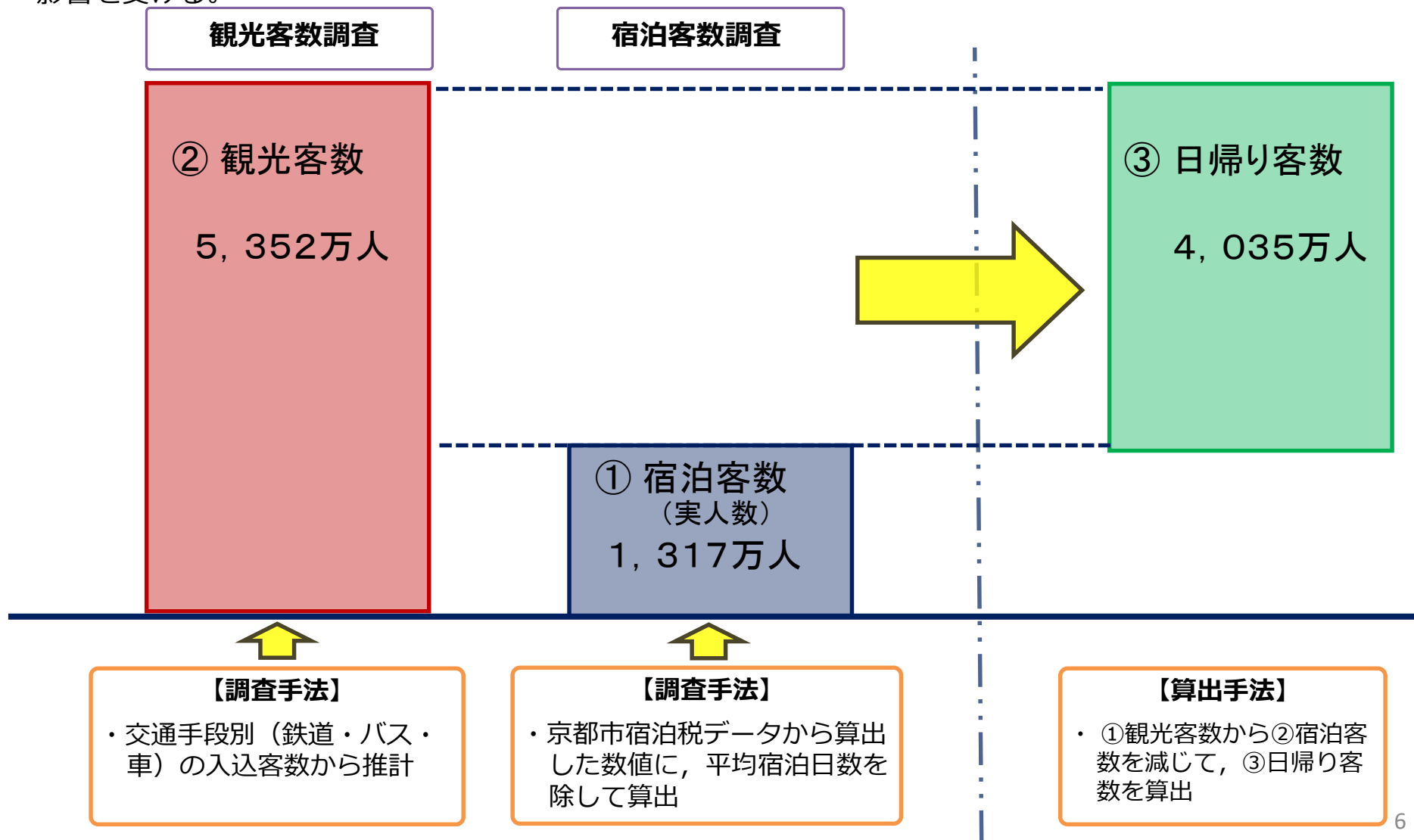


宿泊税データから推計した値を基に、**観光消費額**、**外国人宿泊客数等**を推計

※修学旅行生については、申告のあった課税免除のデータを活用

【参考2】統計手法の変更について（宿泊税データ活用による観光客数等への影響）

- ①宿泊客数は、今回から宿泊税データを基に算出
- ②観光客数は、従来と変わらず、交通手段別（鉄道・バス・車）の入込客数から推計しており、今回の宿泊税データ活用による影響はない。
- ③日帰り客数は、②観光客数から①宿泊客数を減じて算出しているため、今回の宿泊税データ活用による影響を受ける。



【参考3】調査方法の概要

- ・京都市では、観光客数や観光客の動向等を把握し、今後の観光政策に活かしていくため、観光調査を、昭和33年から、60年以上の長きにわたり、内容を充実させながら実施している。
- ・これにより、観光客の皆様の不満等を把握するとともにその解消に繋げ、京都観光に満足、感動いただけるよう、京都の強みをさらに伸ばしていけるよう、取組を進めている。

観光客の定義

観光客とは、観光目的だけでなく、ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等の目的で入洛した人を指し、市外在住で通勤、通学以外の目的で入洛した人全てを含む。

観光客数調査

観光客数については、「観光入込客統計に関する共通基準（平成21年12月観光庁策定）※」に基づく手法により調査し、各月及び総数を推計。

※京都市の都市特性を反映させながら全国共通基準にも合致する統計手法で実施。

共通基準	観光地点を訪れた観光入込客数から推計。
本市の手法	京都市域全体を一つの観光地点と見立てて交通手段別（鉄道、バス、車）の入込客数と各交通手段の利用者への聞き取り調査を基に、観光客数を推計。

宿泊客数、修学旅行生数調査

宿泊客数、修学旅行生については、本市宿泊税データを基に、観光庁から提供される宿泊客数データや京都市内の宿泊施設へ依頼する宿泊客に関するアンケートを活用しながら、数値を推計。

観光客満足度・実態調査（日本人・外国人）

調査時期（年4回）、曜日、時間を概ね合わせたうえで無作為に調査対象者を抽出し、郵送回答や面接聴取の方法により調査を実施。

調査時期	冬期（2月）、春期（5月）、夏期（8月）、秋期（11月）
調査場所	【日本人】京都市内の主要な鉄道駅、観光駐車場等、全13箇所 【外国人】京都市内の主な観光施設等、全6箇所
調査項目	居住地、利用交通機関、目的、日数、性別、年齢、動機、市内訪問地、観光消費額、感想、満足度 など
サンプル数	【日本人】4,400 【外国人】1,732